

昭和 39 年度  
(1964)

## 積雪期槍ヶ岳北鎌尾根から西穂高岳縦走

昭和 40 (1965) 年 3 月 6 日～3 月 29 日

積雪期の槍・穂高縦走は、我が部にとっては悲願の縦走であった。昭和 35 年度の春山合宿は北鎌尾根から槍ヶ岳を経て前穂高岳までの縦走であったが、最終段階に入った 4 月 13 日に、穂高吊り尾根において岳沢側に伊藤国啓さんが滑落し、その救援に向かう途中リーダーであった岩本尹也さんがさらに滑落という痛ましい遭難があった。

以降、遭難の反省に立ち氷雪技術や岩登り技術に研鑽を重ねて、昭和 39 年 3 月に明神岳五峰から奥穂高岳の縦走を成功させ、今回の合宿に繋がっていったのである。

当合宿は、悪天候に悩まされながら西穂高岳までの縦走を成功させることが出来たことは喜ばしいことであった。しかし、教養部統合という大学組織の変更を控えて、信大山岳会の組織造りに多忙を極めた時期と重なり、当合宿の詳細計画書はあるが記録は発行されていない。報告 No.2 を発行するにあたって、関係者に問い合わせをしたが、横尾尾根サポート隊の小川勝所有の山日記が唯一あったのみである。記録としては一部であるが、抜粋をここに記載して、その足跡を残すことにした。南岳以降は、縦走隊員の宇都宮昭義の体調不良により、小川勝が縦走隊員となって西穂高岳まで行っているの、山日記後半は縦走隊の記録である。

一年近く腹の中で温められてきた北鎌～西穂高岳縦走と横尾尾根より極地法形式で縦走隊をサポートする計画がここに出来上がりました。その間、各部員は北鎌尾根へ出かけたり、また文献その他で研究を重ねて来ましたが、積雪期においては、本邦でも一線級と折り紙を付けられたこの稜線を、部として、また個人の山としてまっとう出来るよう、各部員一人一人が持てる力を十二分に発揮して、頑張りたいものです。

長期間に亘る合宿ゆえに、この夏に経験した遭難やまた穂高での稜線での先輩の遭難を頭に置き、信大山岳会におかれた自分達の立場を考えて、最後の最後までその一挙一動に各自が責任を持って行動して頂きたい。とは言っても、萎縮することなく、安全で楽しい合宿でありたいと思います。 CL 西阪 孚

### 計画の経緯ならびに概略

北鎌尾根から西穂高岳の縦走をやろうという話が、年度初めに鹿島槍ヶ岳集中とともに起こり、当初冬にこの縦走を、春に集中をとの案のもとに計画が進められてきたが、長期間の縦走をやるにあたっては、冬期より安定した気候の期待できる春の方が良いといった意見や、その他鹿島槍ヶ岳自体の問題またいろいろの条件をかみ合わせて、春山としてこの縦走を実施することになった。

しかし、この計画一本やりで春山の合宿とすると、一年部員のことなど、これまた問題が出てくる訳だが、幸いにして 34 年度にわが部で行った横尾尾根を、準ポラー形式でトレースし、またこれがサポー

トの役目を果たすことができるので、部としての春山合宿の土台案が築かれた。

その後、穂高の稜線ということで、36年の春の遭難の経験を含めて慎重に計画を進めてきたが、秋には2名が北鎌沢のコルにデポもし、以下の行動表ならびに諸計画ができあがった。

3人の縦走隊が、北鎌尾根をトレースして南岳で横尾尾根隊のサポートを受けたあと、西穂高岳をまわって上高地で再びサポート隊に出会い、共に下山するといった形式である。

縦走のみに着眼した場合、できることならサポートもデポも無い形を望みたいのであるが、我々の実力を考え、また部としての合宿を考えると、サポート、デポを入れることによって安全でかつ充実した合宿形態となったと思う。

横尾尾根のサポート隊は、準ポラーで天狗原にBCを置き、南岳の稜線にACを設ける。ここで縦走隊に南岳以後の食糧・装備等の補給をする。ACの4人は縦走隊到着までにキレットにフィックスをし、縦走隊の出発の際には北穂高岳まで同行し、見送った後フィックスを回収して帰幕する。BC隊は槍ヶ岳をアタックする。

縦走隊は北鎌尾根P2までサポートを得て入山し、以後北鎌沢のコルでデポ品を利用して槍ヶ岳へ向かう。南岳までの行動日数が横尾隊と同じであるにも拘らず、一日遅れて入山するのは、もし条件が良ければ、一日のストライドが計画以上に伸びて一日短縮できる可能性を配慮したためである。

## 参加メンバー

CL 西阪 孚

SL 宮崎敏孝 小川 勝

渉外 宮崎敏孝

食糧梱包 小川 勝 福原正昭 宇都宮昭義 牧 晃一

装備・燃料 中村 洋 井上紀樹

気象 宮崎敏孝 向後利彦

会計 中邨康文

記録 中邨康文 出島五郎 向後利彦

新 幸芙 真野孝一 田中正治 板谷真人 川崎 誠

隊編成

縦走隊 L 西阪 孚 出島五郎 宇都宮昭義 (南岳以降は小川 勝)

北鎌尾根サポート隊 L 板谷真人 川崎 誠

横尾尾根サポート隊 L 宮崎敏孝 小川 勝 中邨康文 新 幸芙 真野孝一 田中正治  
中村 洋 福原正昭 井上紀樹 牧 晃一 向後利彦

## 行動概略

6日 雪 松本～島々～沢渡～中の湯～山賊小屋

沢渡から中の湯までは今年は雪も少なく、ブルドーザーで除雪されていたので楽であった。

7日 晴れのち曇り TS～木村氏宅～新村橋～横尾山荘デポ～TS

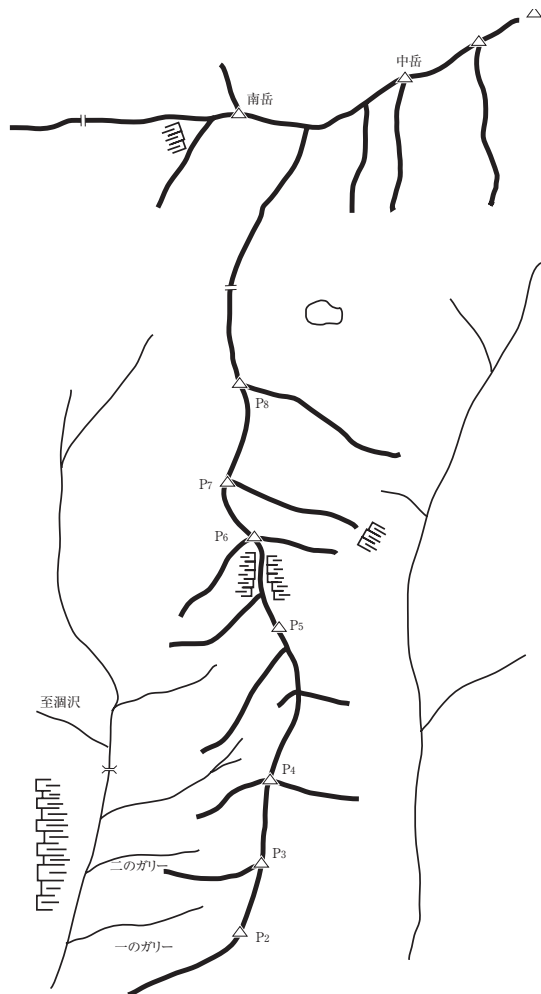
明神からは河原を歩く。今春は雪が少ないよう

だ。帰りは腹が減ってフラフラになってテントまで着いた。

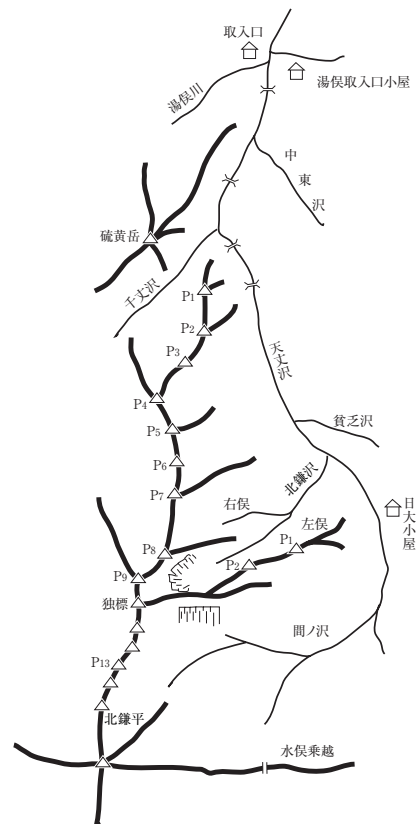
8日 晴れ TS～徳沢～新村橋～横尾山荘TS

全員で一部デポを残して横尾へ。今日は綺麗に晴れて、やっと春山らしい感じになった。お墓へお参りしたが雪で分からなかった。

9日 晴れのち雪 TS～横尾本谷～P5～横尾本



横尾尾根概念図



北鎌尾根概念図

谷～TS

快晴の素晴らしい天気。屏風岩を見ながら谷芯を詰める。中央カンテが雪も着けず黒岩を見せている。横尾尾根 P5 から本谷出合への尾根に取り付く。最後の登りは少し急だがその後は楽な登りだ。P5 に着いたとき、急に天気が悪くなって、強い風が吹き出し、雪もちらついてきた。P5 のテント地は風も強くて嫌な所だ。

10日 雪 沈殿

11日 晴れ TS～横尾本谷～P5～横尾の歯偵察～P5TS

P5へ泊まる者は個人装備と荷物5キロ位、他は20キロ位の荷でP5へ。一度登ったルートはやはり早く行ける。P5のデポより少し上にテントを張る。中村と2人で横尾の歯の偵察に行く。

歯はやはりショッパイ。60～80mのフィックスは必要だろう。

12日 風雪 沈殿

明日晴れば横尾の歯のフィックスだけでもやりたい。縦走隊は今頃もう北鎌のコルまで行っただろうか。今年の春は不順な天気だそうだからシゴかれているのだろう。夜から風も止み、シンシンと雪が降る。昨日からの積雪約1m。

13日 風雪 沈殿

今日も風雪で沈殿する。中村は風邪、中村はひざの痛み、福原も風邪で3人とも病人。病人ばかりでどうしようもない。

14日 快晴 P5TS～天狗原～P5TS

福原、中村と三人で天狗原までデポに行く。アイゼンを着けると靴が凍っていて冷たい。フィッ

クスには3時間もかかった。3人でフィックスするのはかえって時間がかかる。天狗原までは新雪と堅雪との混わりで歩くのにヒイヒイ言わされる。福原、中村ともバテているので雪洞を掘らずに下る。P5では宮崎、井上、向後が上がっていた。真野、新さんは下山したとのこと。

#### 15日 快晴 P5TS～天狗原～南岳小屋 TS

中村を沈殿させて他の6人で南岳へ。南岳の稜線直下の登りは厳しい。南岳の小屋は使用できる。初め小屋の裏の風成雪のところに雪洞を作りかけたが雪が硬すぎてダメ。結局、稜線の東側に掘る。ここもすぐ岩が出て、あまり快適とはいえない。

#### 16日 曇り TS～キレット下フィックス～TS

南岳の下りだけフィックスに行く。下りは夏道でなく沢を真直ぐに下る。気温が高く今にも雪崩るのではないかとヒヤヒヤする。帰りは夏道を二ヶ所フィックスする。

雪洞を新しく掘る。今度は硬い雪でしっかりした雪洞になった。

#### 17日 風 霧 沈殿

ローソクの箱で花札を作る。裏をマジックインキで塗りつぶして立派なものが出来た。一日中コイコイをして暮らす。

#### 18日 晴れ TS～キレット下フィックス～A沢の科尔～TS

風が強くて出発を延ばす。昨日のラジオで横尾本谷の出合いで薪水岳友会7名が雪崩にやられたらしい。中村と向後の体調が悪いので、中邨、井上に見送らせて下山させることにする。福原の調子が余り良くないので、キレットのA沢の科尔の手前のピークと岩稜に40mのフィックスをして帰る。

#### 19日 風雪 沈殿

ソ連の宇宙船の打ち上げが成功して、宇宙士が一人船外に出たそうだ。毎日、NHKの“百万の太陽”で宇宙の雄大な話を聞いていて、このニュースだ。全く科学の進歩は素晴らしい。山登りは将来どうなっているのだろうか。

#### 20日 風雪 沈殿

寒冷前線は通過したが、高気圧からの吹き出しが強く猛烈な風雪だ。雪洞の入り口は完全に埋まって、掘り出すのに一時間位かかる。全く嫌になる辛い仕事だ。縦走隊はどうしているのだろうか。エッセンも石油も切れかかっているはずなのに。

#### 21日 晴れ強風 沈殿

風は強いが久し振りの青空だ。3時頃、西阪、出島、宇都宮の三人が元気な姿を見せて安心する。雪洞の入り口を広げて泊まれるようにする。

#### 22日 吹雪 沈殿

太陽が出ているが吹雪で沈殿。沈殿でも6人も居れば、賑やかで楽しい。外は依然として吹雪。明日こそ高気圧が真上に張り出して快晴になるだろう。

#### 23日 快晴 TS～A沢の科尔～北穂高岳頂上～D沢の科尔～涸沢岳～穂高小屋

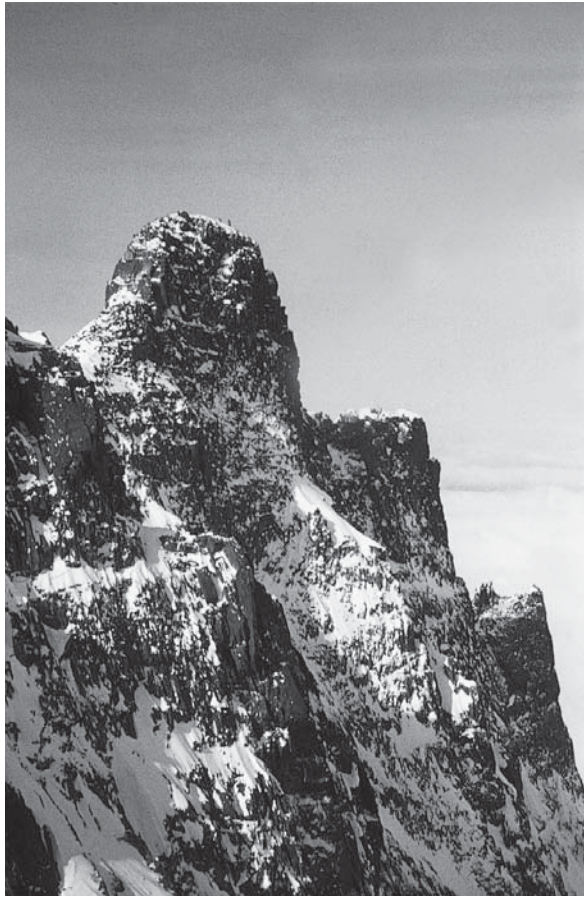
宇都宮は足が軽い凍傷にかかっているため、縦走隊に小川が入る。サポートの宮崎、福原も入れて5人で出発する。風も弱まり雪の状態も最高のコンディションだ。今年は雪が少ないので楽に歩ける。A沢の科尔から北穂高岳への登りは登り口から左へ大きく巻いたのとB沢の科尔近くで大きなトラバースをしないで、真直ぐ尾根どおしに登っただけで、あとは夏道どおし。A沢科尔手前の岩峰にフィックスしておいたクレモナをパクられてガッカリする。

北穂高岳の最後の斜面の登りは、前のパーティーによってステップが刻まれていたので、なんということはなかったが、氷化したところで下るとなるとかなりショッパイだろう。北穂高岳で宮崎、福原に別れて出島さんトップで出発する。さすが出島さんのバランスは素晴らしい。穂高小屋まで雪が少なくスイスイと来る。

#### 24日 風雪 沈殿

気圧の谷が西日本にあり風雪強く沈殿。山口大が下山して、デポの残りの石油とエッセンがあり、快適な生活ができそうだ。

#### 25日 晴れ 穂高小屋～ジャンダルム～天狗の



●奥穂高岳の下りから見るジャンダルム

#### コル

奥穂高岳への登りにかかったら風が西から強く吹いてきて、右の頬が凍傷になったかと思えるくらい冷たかった。昨日の新雪が積もって嫌らしい。奥穂のピークから遭難した岩本、伊藤両先輩に黙祷を捧げ、合宿の無事完了を祈る。

いよいよ西穂高岳への稜線だ。風は相変わらず西から強く吹いている。馬の背の下りは一番嫌だった。トップの出島さんがスイスイ行くのに、

セカンドの自分がヒイヒイ言うのは何とも情けない。下りのアイゼンワークをもっとしっかり学ばねばダメだ。

天狗のコルの避難小屋は出ていると思ったが、完全に埋まっていた。北海道の西の低気圧が前線を引いているので、明日はあまり良い天気でないだろう。しかし、エッセンの予備がほとんど無いので、明日は行動したいものだ。

#### 26日 風雪 沈殿

エッセンがわびしい。準ピンチとピンチの中から少しずつ食べる。身体が冷えて仕方が無い。食べるものが少ないためか。いいかげん美味しいものをガッポリ食べたいものだ。

#### 27日 ガス 小雪 沈殿

今朝はマイナス 22 度にもなり、右足の指が凍傷になったかと思えるくらいジンジン冷えた。今日も食い延ばして朝昼にパン 2 枚。全く情けない。

#### 28日 快晴 天狗のコル～間ノ岳～西穂高岳～西穂小屋～善六沢～田代橋 TS

久しぶりの快晴無風。雪は締まっていて快調な歩き方だ。西穂高岳のピークにはテントがあった。西穂小屋には番人がいた。ここでワカンと履き替える。下りでルートを間違えて善六沢を下る。間違えた！間違えた！と言いながら楽しく樹間を下る。田代橋の手前で、ちょうど宮崎達がテントを張っているところに出た。皆無事に会って賑やかになる。

#### 29日 曇り 田代橋 TS～釜トンネル～中の湯～沢渡～島々～松本

いつものペースで沢渡まで。